

在宅部門の強化を図るべく 高齢者住宅事業に参入

医療法人の強みを活かし
多様なサービスで差別化

奈良県内の北西部に位置する人口約12万人の生駒市。市の北側には、生駒山地や矢田丘陵などの山々に囲まれたのどかな山間地が広がる一方、中南部は新興住宅地

として開発が進むとともに鉄道路線や幹線道路も整備されるなど、奈良・大阪両市のベッドタウンの役割も果たしている。

同市で1985年に設立されて以来30年以上にわたって地域医療に貢献しているのが、医療法人社団松下会だ。同法人は急性期およ

び地域包括ケア病棟を有する白庭

病院(150床)を中核に、回復期リハビリテーションを担う東生駒病院(121床)、介護老人保健施設「グランファミリア」(定員

100人)、居宅介護支援事業所、デイケア、訪問看護、訪問介護等々、急性期医療から在宅支援まで包括的な医療・福祉・介護のネットワークを構築。シームレスなサービスで地域住民の安心ある生活を支えている。

こうしたなか同法人2016年10月、大阪メトロ中央線が乗り入れる近鉄けいはんな線「学研北生駒駅」の駅前に、住宅型有料老人ホーム「エリクシール」(定員76人)を新たに開設した。

同法人の松下宗嗣理事長は、開設までの経緯についてこう話す。



2016年10月にオープンした住宅型有料老人ホーム「エリクシール」

「地域の高齢化の進展に伴い、医療・介護サービスの供給体制を見直していくなか、在宅部門の強化を図る必要性を実感し、高齢者住宅事業への参入に至りました」

同施設の一つの強みは、やはり医療法人を母体とした手厚いバックアップ体制だ。松下理事長は定期的な診療に訪れ、入居者の健康状態をチェック。万一の場合は、一駅先の「白庭合駅」の駅前にある



同施設の運営に携わる松下宗嗣理事長(後列中央)、松下佳代常務理事(後列左から2人目)、宇野貴博施設長(後列右から2人目)と現場スタッフの皆さん



医療法人社団松下会の中核を担う白庭病院



壁の片側にアクセントカラーを配した洗練された居室



同施設内は回廊式的设计を採用し、開放感のある空間を実現



1階には「リハビリテーション特化型デイサービス」を併設



くつろぎの空間として各フロアに食堂を設置

入居者のQOLに配慮し 洗練された空間を追求

鉄骨造4階建ての同施設の館内

本院の白庭病院とのスムーズな医療連携が期待できる。
また、同施設内には理学療法士を配置し、本格的なマシントレーニングなども提供する「リハビリテーション特化型デイサービス」も併設。回復期リハビリテーション病院を擁した同法人ならではの特徴的なサービスである。このように充実した医療・介護サービスでの差別化が奏功し、同施設は開設から間もなく満室となった。

一般的に多くの高齢者住宅では、廊下を挟んだ両側居室の設計となっているが、同施設ではあえて食堂や浴室といった共有スペースをフロアの中央に配置した回廊式(共有部などを廊下が取り囲むような様式)を採用している。このように空間を贅沢に活用することで、開放感のあるゆったりとした設えとなっている。

入居者の日常について、同施設の開設準備から携わってきた松下佳代常務理事と宇野貴博施設長の両氏は、「入居者様同士のコミュニケーションもでき、ここでの生活を楽しまれているようです」「スタイリッシュな設えや利便性の高い立地は、QOL向上にも効果的です」と口を揃える。

ハード面から同法人をサポートしたのは大和ハウス工業株式会社だ。
「土地の選定から設計・施工、アフターサービスに至るまで、住宅メーカーならではの小回りの良さと柔軟にご対応いただき、『理想の住まい』を実現させることができました」と、松下理事長は高く評価している。
同法人は、今後も医療・介護のサービス提供体制にさらなる磨きをかけ、外部への周知も図っていくなど、地域全体に寄り添うハートフルなサービスを広く幅展開していく構えだ。